

寛永諸家譜

平氏十九冊之内
支流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(80)		
函號	特	76	1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

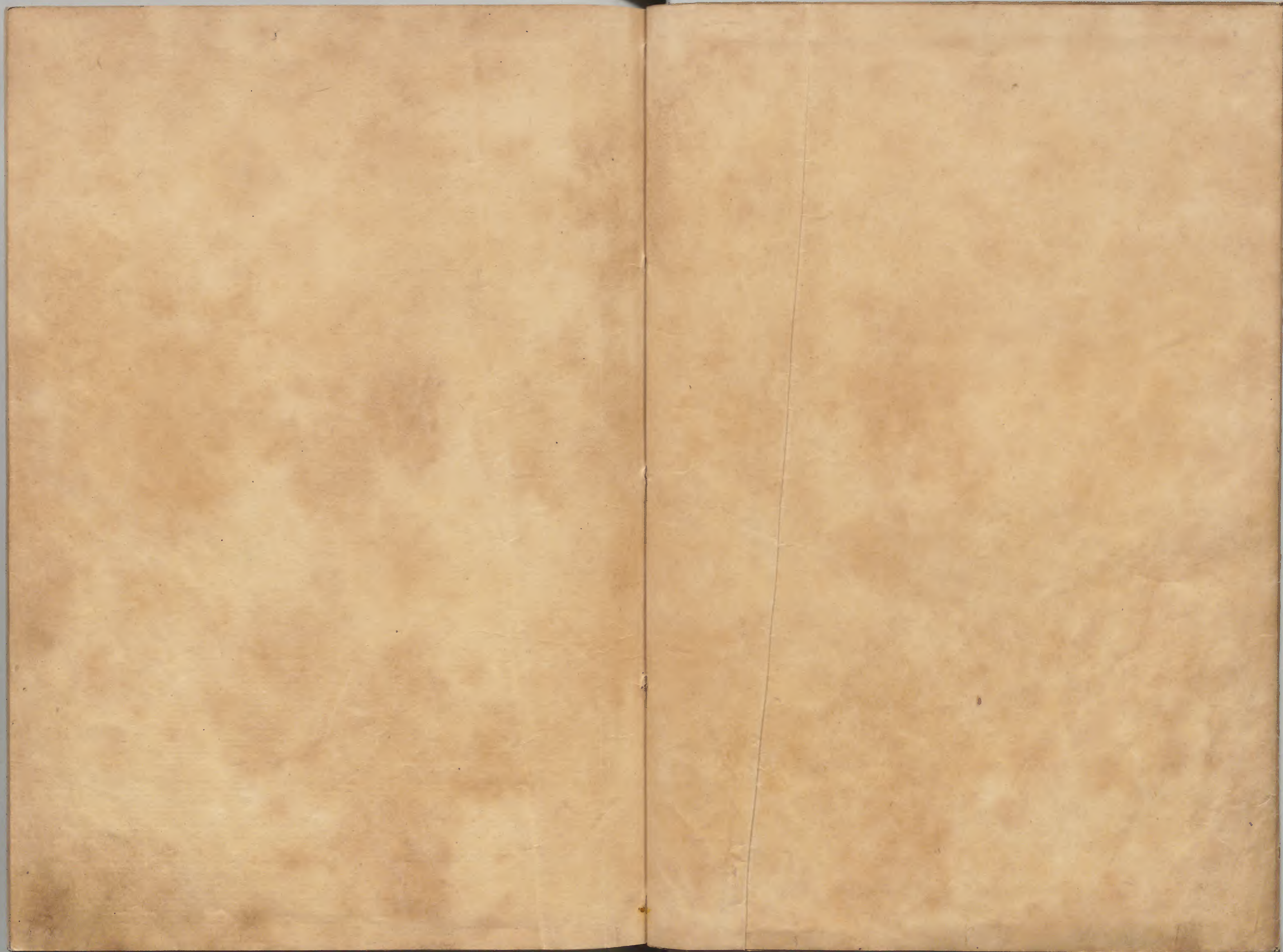
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

Kodak, 2007 TM Kodak





坂部

東田

坂井

矢橋

寛永諸家系圖傳

平氏

支流

坂部

淺草文庫

● 重勝

又右丈

生田三河

長親

主

信忠

主

まのふと十と案

あーく死

法名道安

三利

又文 生回花

信忠主としい 清康君より

六十三歳ありて死すと 法名宗跡

正家

又十郎

送酒巫

生回花

後忠口をい

東照大権現

之列石漱合我

大権現より沖感状と

い

今度正法新矢と

用作

八月朔日

元康沖判

坂部又十郎より

元龜元年 姉川合戦 此時 敵一人
とらへし

大権現より 沙感状し 本意ふ 今これ
ら あり 七十四歳 あり 病死
法名 目安 知菴院と号す

正定

又十郎 比古 生 同 同 同

大権現より けいへん

元龜三年 冬 別 味方 原合戦の時
有 級 上 均 あり 其 時 劍 あり あり
ち 屋 平 八 馬 あり 是 あり あり
味 方 此 陣 あり あり
大権現 其 切 と 慶 取 あり あり あり
十 費 あり あり あり あり あり あり あり
ト あり あり あり

天正三年 三 月 長 藤 合戦 此 とき
武 田 右 馬 助 信 長 あり あり あり あり

看級を均す

同六年を目前合戦此の時高名と

大権現其功を涉感あり〜喜洞平

貴とにまふ

同十二年尾列長久の合戦の首

看級を均す河

大権現より涉弓を〜

同十三年二月九日

大権現正定〜余〜遊列袋井澁

り〜平相合戦高を討

討又正定刀〜折飛を〜

〜死に連死所と又飛を〜

下勝〜也〜鳥岩寺と〜

〜殺と

後勝

二十師 生国回

天正三年後勝十五歳此大須賀

公卿集の村康高より一属と

同六年十月八日を列高天神の

城下園安河よりとひくお桃時康高

看之級を均しり共一ち廣橋これ

を計れども中勢太捕回を後守若浪

友孫石川日向守久世よりなる村

これを後和より一領建と

同七年九月十三日二天神此城下

と海山よりとひく大須賀康高依

共をまきりけ城申れ共とうん

とと謀者これとみく城申につく

乞うりあ〜城申り共をわ

せめきり〜ふ家共陰難此地ぬ

い〜教れまふとつ〜乃〜

廣勝池脇〜をひ〜先良軍約

中野江尾つり〜と海

同年十月廿一日を列河と村り

〜大須賀康高若浪人まきり

伏兵とありし者敵とてうらん少と
康高首七級を得しり其一切を
廣勝乞と討たしふらと守り達
と

同八年三月十六日城中より天
下天王馬場よりか後
と康高の兵中村れおかしり純
句いこれとありし者廣勝と
と氏家達以師を後武助發は

兵務驛山傳八郎久世三軍脚等
池を合く敵二人を撃たしり廣勝
諸炮ありありて砲を叩しり松下
石見守これと後和しり進進と

同九年三月廿二日言天沖乃城
没落北河廣勝敵一人と討た
同十年北春甲列武田氏滅と

北八月六日
大権現甲列新府より清見陣地

小糸氏在甲斐信濃しやんぐた
め又信濃解誘れあしひさいさか
張と

大権現は伊先は酒井大膳の村大酒
あつた村大佐七右衛門村本多
豊後守石川長門守墨江二郎在村
穴山流武川流之子解誘をひさ
ひく小糸氏北軍中なるい
ろしがあしし事りささる

小糸氏山をるる陣と其間二里
斗乞と

大権現伊先は酒將又はくは
法おのくきとおのくき
かんと小糸氏北兵うれ治と
墨江守在るれと物とささる先
と其はく大酒賀中在る教
と防ぎくさ事教たうれ及
海井原の村法卒を下知し軍

印をもちげし守法ゆきあ〜敵り
ありき〜七里九間ゆ故
なふ〜新府〜ゆり比時廣勝
大〜軍印ありす〜氏也
新清子〜陣どり
大権現と對陣す〜
中条氏前田此為〜日〜
〜且是生田此〜かを
日月廿七日徳将お儀〜

ま〜もんと〜大権現これが謀
〜す〜し〜
お馬あり〜きと妙り警方法お馬此
時將兵と〜びて先〜新田
此兵と追〜し前田此兵志付〜
〜ふ〜し〜も教れ大軍
〜い〜き〜し〜比時廣勝軍
印あり物垣跡六〜又あり
てこれ〜

同十二年四月九日尾列長久寺
合戦此時隆勝法を合せし敵一人
うらと海軍御太夫これと今も海
味方すくくく敗れしんせと隆勝
大原空康言く一層と時女敵共う
此頃と隆勝言馬と川をくて物也
さうさふ隆勝をくび神谷六年小治
らふ古事もこれくくく

同年六月

大指現解に味とせめたまふ時康言

く一方此軍將も好白隆勝ハ竹葉
此色く付倉表攻口くあり軍
忠をけくくとすくくくつて隆川隆
参り

同年此村秀吉此六栗田より一交に
お強と味方これと追んがためうれ
れあへるを賞すくく此しん気
くくく利とゆきくく

い時 疾勝教一人と云らむ

同十八年相州小田原陣此と云

大権現 疾勝をいび久世三郎

て若根二子山に於り教れま

と云せしむるに云く

と云ふ是怪しむるに云く

のりこゆるに云く

と云く

小田原に城とせしむるに云く

ゆく西武粉骨と云くす
後正徳園横田村三百石此城と云く
寺長也の九月十日園ヶ原合戦
此とき

大権現 疾勝をいび久世三郎

て後陣此と云く

同十九年大坂陣此と云く

右徳院 殿と云く

此城に東嶋此と云く

ありし柵と仰ぐ人共古し〜て是
とまき〜し〜し

台徳院殿 廣勝いかりを〜び久世ひさよと宣卿のりけいと
石田いしだの〜まけ〜柵さくと攻やぶ〜教ていこう道みち
ゆ〜し乃のやと〜んや汝おんお二人ふたりこれ
し〜ういひ〜る〜や〜り〜戻かへり
なひ〜く二人ふたりこれ〜み〜く若わて〜い〜き
尤なほ〜や〜する〜る〜一ひと若わき〜な〜一〜く
境さかいれと〜し〜し〜く〜ぬ〜せ〜た〜ら〜の〜し〜

の止境とどまりれた方かたより銃炮じゆうぱうと〜な〜ら〜
うは城しろ中ちゆうれ共ともす〜ふ〜り〜あ〜る〜
あ〜〜も〜の〜し〜は〜追おは〜し〜ん〜煙けむりと
ま〜い〜く二人ふたりま〜う〜し〜と〜く〜と〜や
か〜る〜る〜一〜と〜ら〜り〜と〜い〜と〜も〜も〜味あじ方かたを
又またひ〜〜く〜あ〜ら〜へ〜き〜境さかい〜り〜あ〜る〜
あ〜れ〜し〜や〜ぬ〜〜ん〜と〜せ〜は〜今いま来きたれ
〜と〜も〜ひ〜す〜ん〜一〜う〜れ〜故ゆゑ〜い〜味あじ方かたの
大軍たいぐん〜〜り〜あ〜れ〜を〜唯ただ〜ら〜か〜る〜

法家とてはくべし一ありふかよとて
歌長定々引違へしとてふらう乃
其歌しとて是とてすて地吉
元和元年大坂再乱れとて五月廿日
台徳院殿須奈一陣死たまふと翌日
早物八尾表といづりてははく
台徳院殿務勝をいび之世三宮即本
三孫とて使として最堂和泉守高虎
井伊掃部公忠者といひてあり

核り余しとて合戦すべしとて
なまに使いしとて支将といひて
合戦すべしとてありぬ
同日歌長山をいびしとて兼磨山
お漫といひ時務勝とて世三宮即
かきぬり法軍みつとていしとて兼磨
山れ方といひてありとて一戦と
始りてとてありとていしとて清馬とす
うられ大坂すかともら没落と

四年

將軍家より湯ゆへへくくししるる

曰ふ此林

名徳院殿より下総水海上領をよむしとつうがうまゝのこゝ

矢印領此内三子石とたすやいば

曰二年

名徳院殿より沼列 結城領此内三子石なまきり

ししくくけけんんととすす

曰三年足輕廿十人とのあがもらるあがり

曰也也

名徳院殿沖と海此時福清た清の左史しやう

ああららくく關かん國こくせせららぬぬ時ときにに福ふ清せいとと

江戸あり

名徳院殿廣勝とび久世三郎ひろかつ

てて修しゆしし女によ等らうししぎぎ江戸へ赴むかへへ

ししもも福ふ清せい遠えん宵せうれれららるるわわららぬぬ

杉平下野守杉平式部左補島根左京亮しんぺい

名之源也即等なのみがが共いししいいいいああ人ひと

此下知ともいへりしと縁せしむ
丁とのまゝいし縁略此書二通
よとひくよつとあへて授ふ
家りよとひくあへて授ふ
信将と集りて具しけしよと告
牧野太馬允花房志摩守
均命此赴と福徳より遣と福徳
り及びられりて授ふ
よとひく縁せしたまふ

同年此冬与力此縁地として上総国
大妻越りよとひく二子石とたまふ
旧八月十一日武列江戸よとひて
病死と案六十二 安徳院目る

正重

友五右衛門 生國同あ

大権現をよび

台座院殿

將軍家一ノ子久々ノ子

三盛

三太丈

將軍家一ノ子久々ノ子

三直

孫三郎

三勝

甚左衛門

女子

源英源也郎三勝ノ妻

女子

源英源也郎三勝ノ妻

勝宣りふ

他十郎 生回武藏むさし

実成久世三回郎 廣宣ひろのぶの子なりおとこ

代時よしかたより廣勝ひろかつ養てやしなふといふ

元和元年五月七日大坂合戦の時おおい

敵一人と討死うちせりし又敵とまたおたかりし

逃にげりし討死うちせりし年十と五ご 法名宗実むねじつ

女子

杉下すぎのしたより清村重徳しげのりが書かき

正志しょうし

次善坊つぎぜんぼう

大権現おほいけんげん

台座院殿たいざえん

將軍しやうぐんよりしるししるし

正勝

正勝

將軍ありはく

唐利

十郎と云ふ二十郎 生誕處江指酒家

實は酒家津の郎正勝の子なり唐勝

唐利の子なり

元和三年七歳より

台漣院殿より

將軍ありはく

同八年父唐勝死す唐利と云ふ

正勝の地と云ふ

寛永十二年より十歳なり

足利十人よりあはれなり

言^い令^{れい}

こ^こ助^{すけ}

生^{せい}回^{かい}遠^{えん}江^え

彦^{ひこ}通^と

孫^{まご}三^{さん}

生^{せい}回^{かい}氏^し純^{じゆん}

孝^{こう}の^の紋^{もん}本^{ほん}丸^{まる}

勝利 莫又 此系 尚

勝者

源五郎 生四卷の

大須頼忠 爲村 康高 一 尚と

天正三年 長藤 合戦の時 十九歳より

一 龍興一人 として 戦死 した

うら

同三年 武田 勝頼 遠州 栲幡 嶺 戦

なせめ落さんか為り沖洲表り
進敷し所り

大権現流杉より沙出馬あり松山

傳ぬるまゝ勝彩若きこころ

いさまりけくは時勝者なり比誓山

傳八郎浅井九郎為招極又十郎

れ致し進りれ中り勝者又十郎二

ともぬ敵者なりうらとら

大権現流感ありく沙華羽織と勝者

うたまたふ

同六の十月八日遠列言天神乃城下

同安河よりといくあいをくひ

河原言首三級と切りあうれ一級は

勝者られしと伝河より中務を物

日る後守菅沼藤為石川日向守久能

とる能射是をきりて流相り

達とて後言天神れ城下堪加屋

くといく歌共一人城中より

ふか勝者^{しん}を討た^{しん}又高天^{たか}神^{かみ}の
味下^{あじ}林^{はやし}を^しとひく^し我^{われ}も^もの^のび
敵^{たて}無^な一人^{ひとり}い^いと^と又^{また}味^{あじ}中^{なかつ}一^{ひと}り^か勝^か者^者
これ^{これ}を^をう^うら^らせ^せし^し味^{あじ}中^{なかつ}一^{ひと}り^か勝^か者^者
我^{われ}書^{しよ}一^{ひと}通^とと^とけ^けり^り別^{わか}れ^れを^を
を^を敵^{たて}と^と

大^{おほ}指^{さし}規^き涉^{せつ}威^いあり^りく^く八^や本^{ほん}百^{ひゃく}儀^ぎと^とな^なす

同^{どう}七^{しち}年^{ねん}九^く月^{げつ}十^{じゅう}三^{さん}日^{にち}康^{やす}高^{たか}天^{あま}神^{かみ}
味^{あじ}下^{した}三^{さん}峯^{かみ}一^{ひと}休^{やす}兵^{へい}と^とま^まし^し色^{いろ}志^しの^のび

の^の者^{もの}乞^{ねが}を^をみ^みく^く味^{あじ}中^{なかつ}一^{ひと}り^か勝^か者^者
味^{あじ}中^{なかつ}一^{ひと}り^か勝^か者^者と^とあ^あり^りて^てあ^あい
き^きく^くこれ^{これ}と^とま^まし^し勝^か者^者

大^{おほ}指^{さし}規^き涉^{せつ}威^いあり^りて^て僕^{わが}者^{もの}と^とな^なす

一^{ひと}と^と味^{あじ}中^{なかつ}一^{ひと}り^か勝^か者^者と^とあ^あり^りて^てあ^あい
き^きく^くこれ^{これ}と^とま^まし^し勝^か者^者
味^{あじ}中^{なかつ}一^{ひと}り^か勝^か者^者と^とあ^あり^りて^てあ^あい
き^きく^くこれ^{これ}と^とま^まし^し勝^か者^者

一人も勝者乞と得るあり

又禮規乞を感英一はのふうのち

勝者徳者となりて遠州津島郡

一ありて敵者三人なる天神

津島甲外にさむしんとして勝者

法とありてのいしひの信海忠節と

つゝ者一人とらると家二人の北去

又禮規乞を天神に津島中村に伏者

まうけたまひの勝者として乞う

将一とあり 任ありて甲外あり

津中一加勢とほははるるに津中あり

乞とありて一ははるるに任あり

一とありて一ははるるに伏者として敵

乞とありて一ははるるに勝者として一人

とありて一ははるるに敵一人と

又遠州道里村にさむしん敵一人と

みか其間七八所よりなり乞あり

よりありて一ははるるに勝者として

て是と討死

勝頼は其邊に粉山ありて是を討

入時

大権現粉山に依りて守りて其

の無き處に之を討てて其

其地と進みて敵一人を討

又其田に其と遠に二役ありて

討敵一人とあり

又遠に其地ありて其地を討

うりて其地

又該に田中に其地ありて其地を討

討死

同九年其天に其地ありて其地を討

を討死この時

大権現粉山に依りて守りて其

其地と進みて敵一人を討

又其田に其と遠に二役ありて

討敵一人とあり

大権現乞と称るる一は、
位也

是も勝者、累年軍功、
賞あり

同十年甲子、
生田より

大権現勝者、
伏見將とあり

し、耐首、
其一級勝者

そをよふ

同十二年、
尾列長久、
一番、
合戦

敵一人、
討ち、
合戦

合戦乃、
討ち

同年、
枯

大権現山、
陣、
其、
田

陣、
張、
山、
田

て、
伏、
見、
將

十、
三、
級、
勝

中

同十八、
年、
小、
田、
原、
陣、
此、
時、
勝、
者、
何、
友、
石、
原

勝、
者、
其、
数、
三、
百、
人、
と、
い

キ、
ハ、
一、
人、
と、
い

して酒匂れ宿りあり時お教者人
 うれ宿り過勝者先これと云く其
 以て進路をまゝ山峯に托脚を
 實に托脚刀をまゝおまゝに
 進路をお好まうしひくまゝに
 左刀と合うれば柳系式部を備へ
 珍事ある所も又進路が志す
 主税助の奉勅信人へいんあは
 うりあり勝者をまゝいんあはたふ

旅を明らう志すくあり候友
 乃助藤原太史もゆき此来りく
 此のり主税助をいんあはりく

大権現の御と 伊いれいれ武
 勇人あすれう若なり具罷とい
 式部を補へり居せられ
 けおち天神合我れ聞て教興人
 と生補

同年此冬と信回田村よりなむく
之百石此地とて今よりしるは
て秀勝乞と領と
長四年

大権現伏見白崎
しりて忠田筑前守兼左京守淺井深正
之馬治下りてしるは
これと頭之源之郎とて若あし
若しはとて乞と志ふなり

乞よりせり頭之源之郎といふ

三勝

源之郎 自樂 生國遠江

大権現
此は伊大相を頼宣とて
御令

是は長三十八人といふり
六百石

此地とたすつと

大権現より父勝右が領地之百石といふ

しり今よりしりくきと録也

彦利 ひろと

十部集 二十部 奉 と と と

秀勝 ひでし

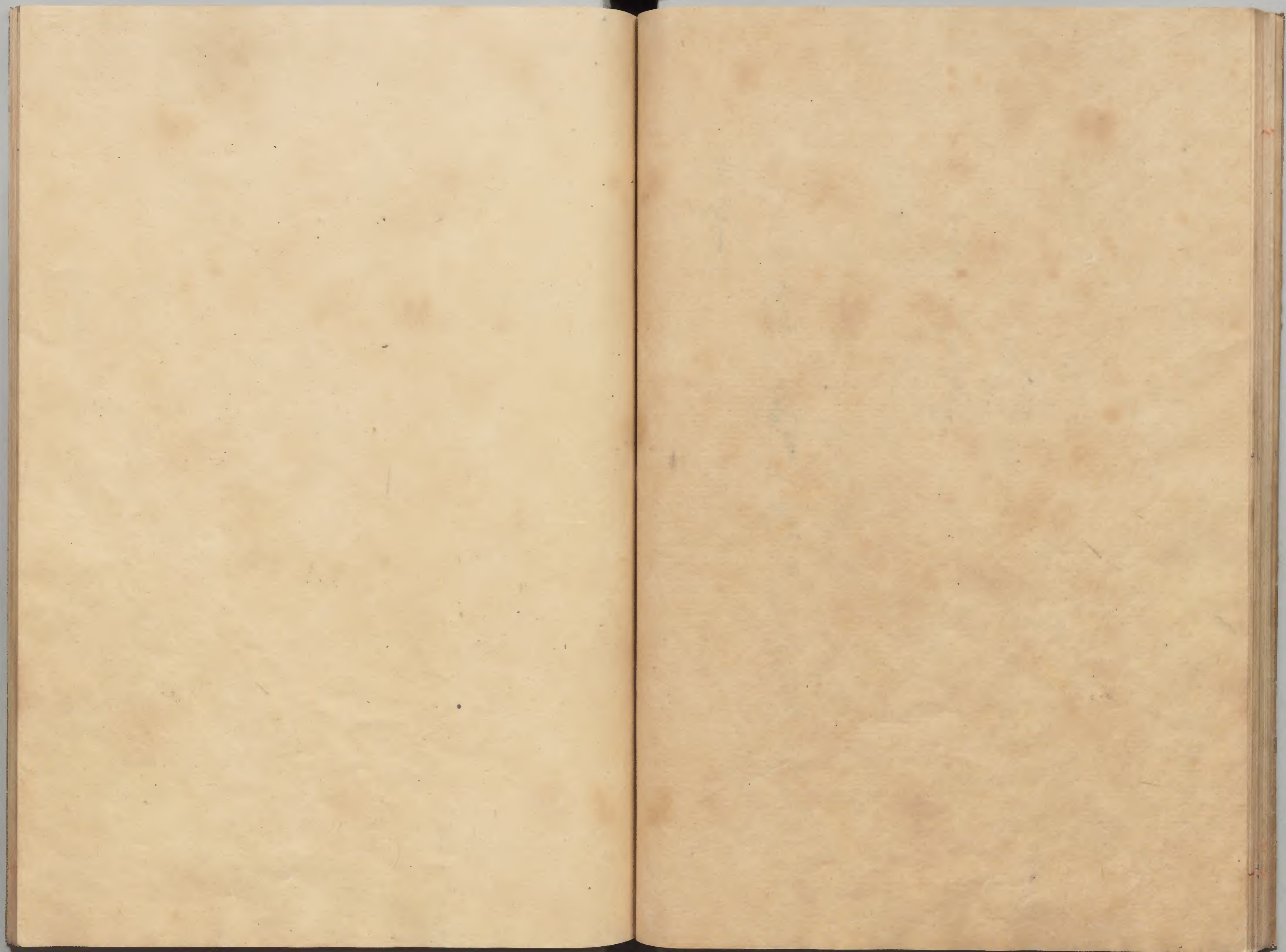
源也部 源也部 生回遠 生回遠

三勝、家督と継で新道つ又はさ

言命 ことのみこと

三三和 彦利とお作 彦利とお作 坂部 さかべ 権 けん

おれ おれ 坂本 さかもと 凡 ひん



坂部

基

与九郎 生回河

重宗

与九郎 与集 生回河

享和十九年二月六日死

歳七十二 法名行心

家次

乃右衛門 生田武彦

享長十九年

台座院殿とねー

子の紋本丸

東田

● 雅友

友なる者 生回冬河瀬茂那

元龜三年十二月廿二日之方系り

しひ〜討死

後春

藤原為 生同日和

十八歳の時是時よりとひく始る

大権現よりけくくくく

元和元年の改改陣に時時使番と

はとむらりち改使見よとひく

金銀か納り奉とひくこととら大改み

とひく死と

女子

東田屋助左衛門が母

女子

東田権左衛門が母

権貞

六島三郎

名別権貞頼より権貞と

病死びやくし

権長ごんちやう

教皇卿 生回堂なまかへだう

寛永元年かんえいげんねん

將軍しやうぐん

種真むねまこと

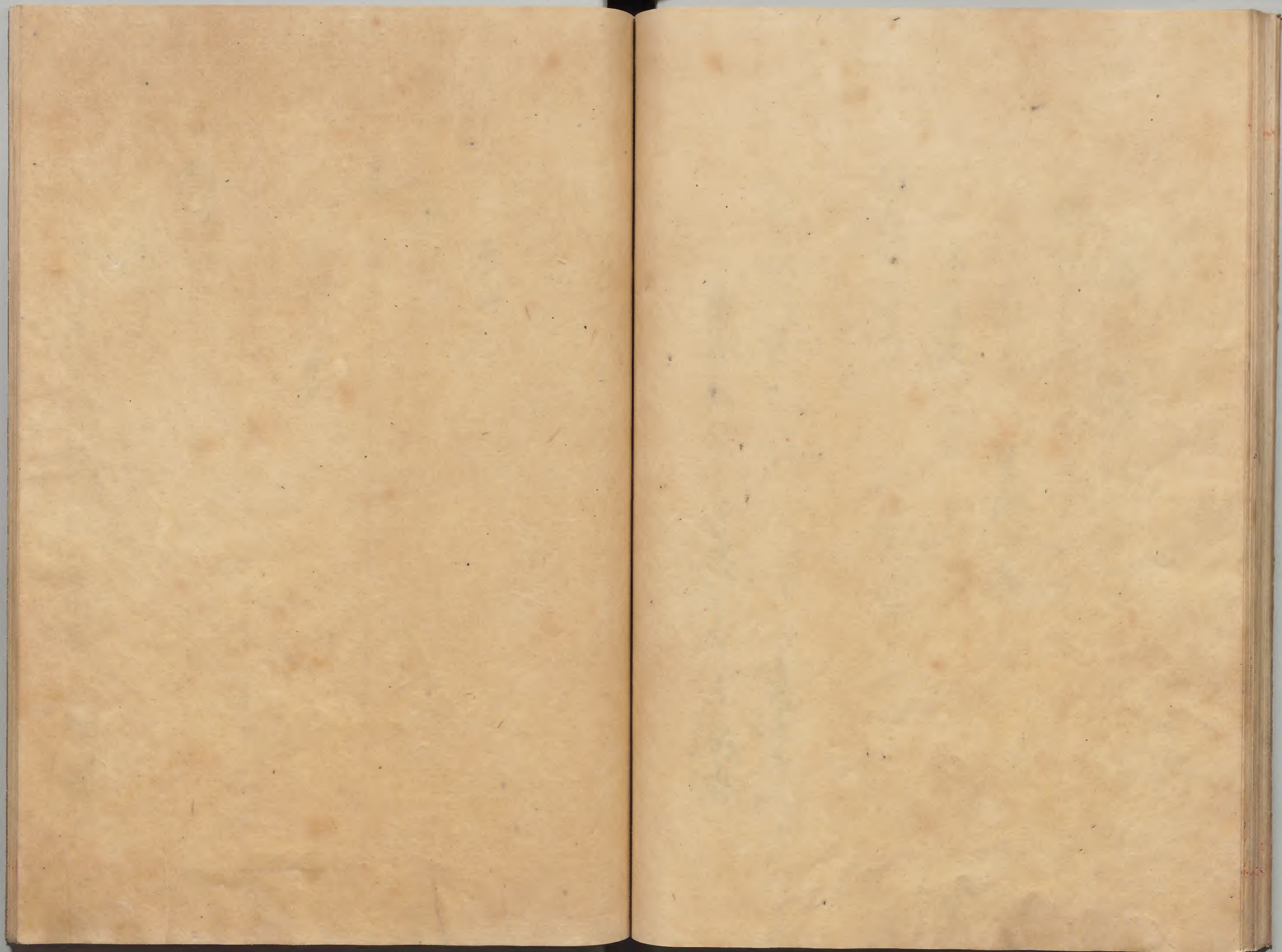
長胤ちやういん

實じつ為な原はら田の守り屋の長ちやう胤いん
長ちやう胤いん長ちやう胤いん

権成ごんせい

教皇卿

孝こうのの級しゅう丸の内うち三さん川がわ



権治いさふ

権左衛門

母右衛門藤左衛門いさふ也故母いさふ乃いさふ氏いさふ

基もと

本村久兼もとむら

原田はらだ

残りて原田と梅と

台座院殿

將軍

梅氏

百助 生田武務

將軍

九月三日

東田

とくは内藤様ありたかき東田
と号す

●
正直

旧友甚多 生回三河

名所 一と云々

大権現 一と云々

権重 ごんじゆう

甚務 生回因あ

仰少しり父母よりとと色外祖父母田

教な者よりやあ家故より氏

とわしためく東田と号は考より

痛惱あり在る勤仕と事年あはる

寛永十二冬十月朔より

歳六十五

権重 ごんじゆう

半善 生回因あ

元和元年大坂陣の時

大権現より先祖と知経と

権重と月祖れ親無百人より松浦

内務元あ初軍集とより隊長と

と四月七日大坂より力戦先は

告す 隆勅とい時あ戸軍集

松浦内務允布施孫系集輝屋七三系
しほい権丞等出ん子れ驍初と高
しむ毛

又権現松浦内務允と旨く権丞武勇
と感しと旨い沙由陣れ権丞一
人沙市と旨い八月十日の地
と

台座院殿と旨い

將軍と旨い

権春

小笠原

えね九と旨い

將軍と旨い

権信

本と旨い

将照 しょうしょう

平系

生田国

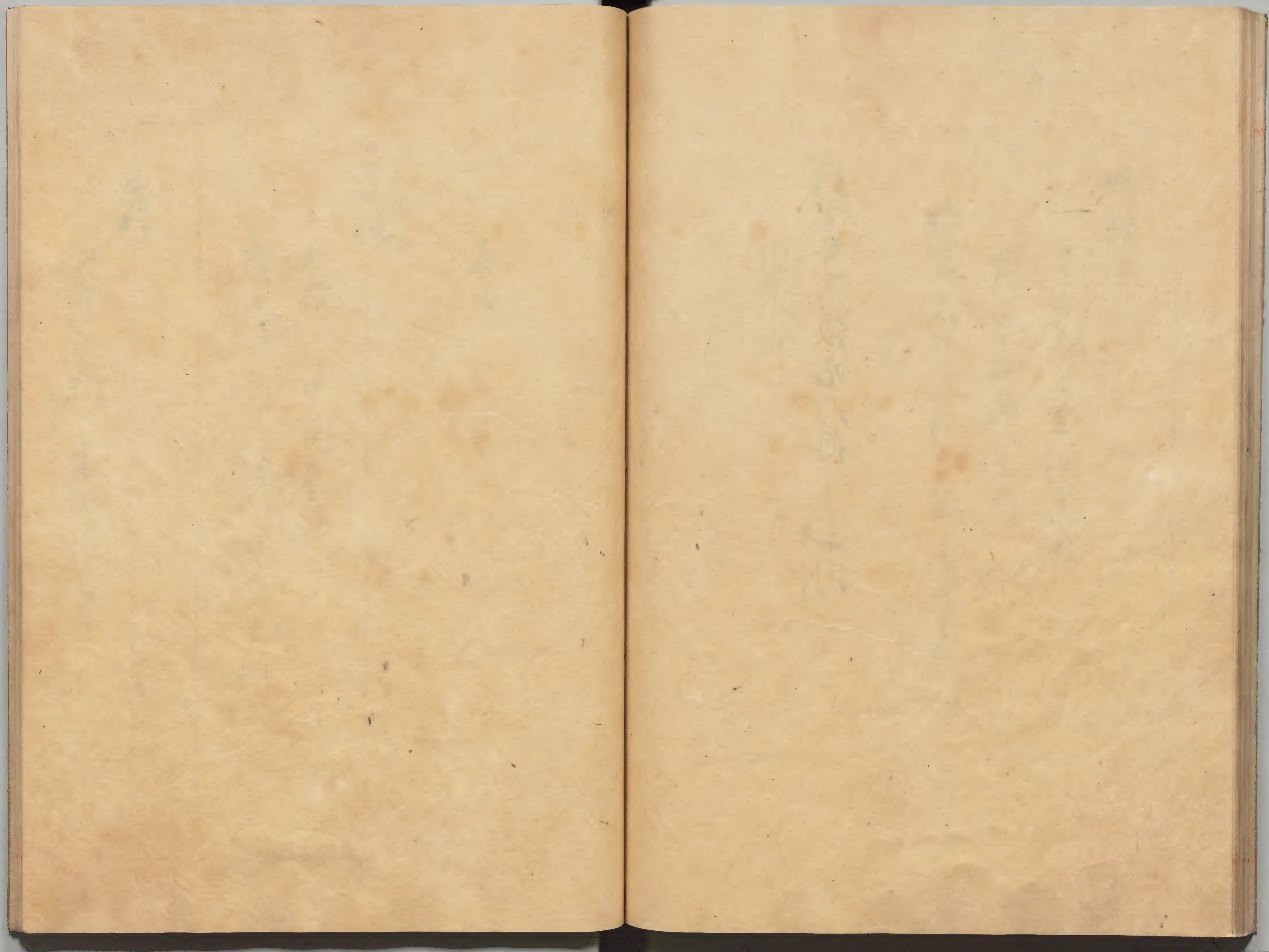
寛永二年

將軍ありしに

将常 しょうじょう

内務助 うちむすけ

子乃紋丸乃内 三門



石田

● 重隆
しげたか

和泉

生田巻河

唐忠

しげたか

系隆
しげたか

九郎系隆

生田巻河

大権現より清之り

長十九年五月より死す

八十五 法名清秀

権正

勘多末

山田系圓列名古屋開ヶ系忠陣

子ありて侍

長権

三九郎 生同同あ

大権現より三人ありて大番

少心

元和元年九月より死す歳三十七

法名清耀

西権

三九郎 生同同あ

内系

元和元年十二月

大権現くわんげんのの内うちのの三さん門もん
とほとじ

家けのの改かへ丸まるのの内うちのの三さん門もん

系回

集 五九

沙 助

生回正河

三三清 祿 為 一 一 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九

集

三三刑 部 為 一 一 二 二 三 三 四 四 五 五 六 六 七 七 八 八 九 九

大権現ノシラノキノノ

基

沙ノ筋

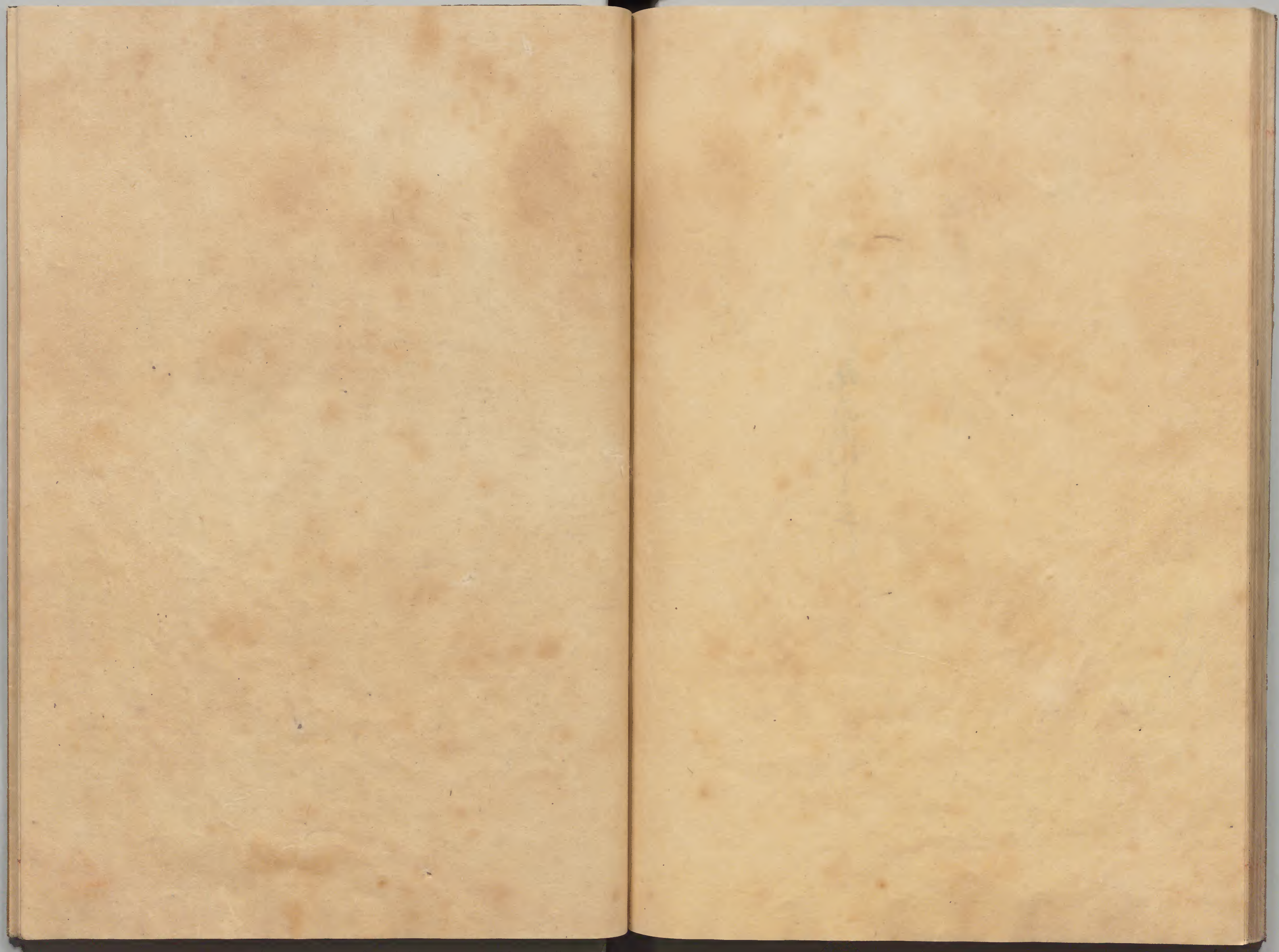
大権現ノノ

名権院殿ノシラノノ

西ノ

沙ノ筋

大権現ノノ



● 基 もと

坂井 さかい

しーくは赤川三郎右衛門中兵衛
生四尾張

信長 のぶなが 一は信長たし

通盛 とんせい とよき とよ 一は い 一は い 一は い

赤川通盛 あかがわ とんせい 一は い 武勇 ぶゆう 一は い 一は い

成利

坂井下流 生回河

信長一統坂井石道將監と兄
頼れ物とたり信雄一統と
信長の位とあり坂井と号は
信長荒吉乃信雄一統と
若田長門守とあり成利と
ありありとありありありあり

長門守をあらんため成利と尾列

小川一統とあり成利河と長門守

死をすすふとあり思田の監とあり

一星崎乃城と楯新とあり秀吉

命とありとあり信雄と城とあり

一將監とありとあり勢利とあり

秀吉ゆとありとあり地二子とあり

依見れとありとありとあり

長五年勢利 信知一換とあり

成利急^{なり}ー^きー^し 延治^{えんぢ}せむ^しとす^けし^やき^き
矢^や取^とと^りあ^りく^く死^しと^し 法名^{ほふな}祥^{さむ}清^{せい}

成政

牛^{うし}取^とり 生^{なま}田^た尾^お法^{ほつ}
長^{なが}久^{ひさ}年^{ねん} 奥^{おく}列^{れつ}ー^り 山^{やま}田^た陣^{ぢん}北^{きた}志^し
金^{かね}中^{ちゆう}ー^し 山^{やま}田^た道^{だう}河^か保^ほと^と
畠^{はたけ}田^た守^{もり}が^が父^{ちち}下^{した}信^{のぶ}守^{もり}と^とあ^りく^く
大^{おほ}権^{けん}現^{げん}ー^り 福^{ふく}ー^り 山^{やま}田^た道^{だう}河^か保^ほと^と 地^ぢ

二百石とたまふ

開^{ひら}ヶ^が原^{はら}沖^{おほ}陣^{ぢん}北^{きた}山^{やま}田^た道^{だう}河^か保^ほと^と志^し
川^{がわ}の^の城^{しろ}ー^り あり
大^{おほ}坂^{さか}支^し度^ど北^{きた}陣^{ぢん}ー^り 信^{のぶ}守^{もり}
大^{おほ}権^{けん}現^{げん}薨^{こう}沖^{おほ}陣^{ぢん}の^の後^{あと}

台^{たい}徳^{とく}院^{いん}殿^{でん}ー^り 信^{のぶ}守^{もり}と^とあ^りく^く 大^{おほ}陣^{ぢん}
番^{ばん}と^とし^しと^とむ

元和九しちのとし

将^{しょう}軍^{ぐん}家^けー^り 信^{のぶ}守^{もり}と^とあ^りく^く 大^{おほ}陣^{ぢん}

寛永二年四月三日
法光道英 平一

成令

才左衛門 生田伊勢

元和九年

將軍家より湯へきくまら

寛永二子十二月より大所番と
しとむ

同十年より領地とく人給ふ

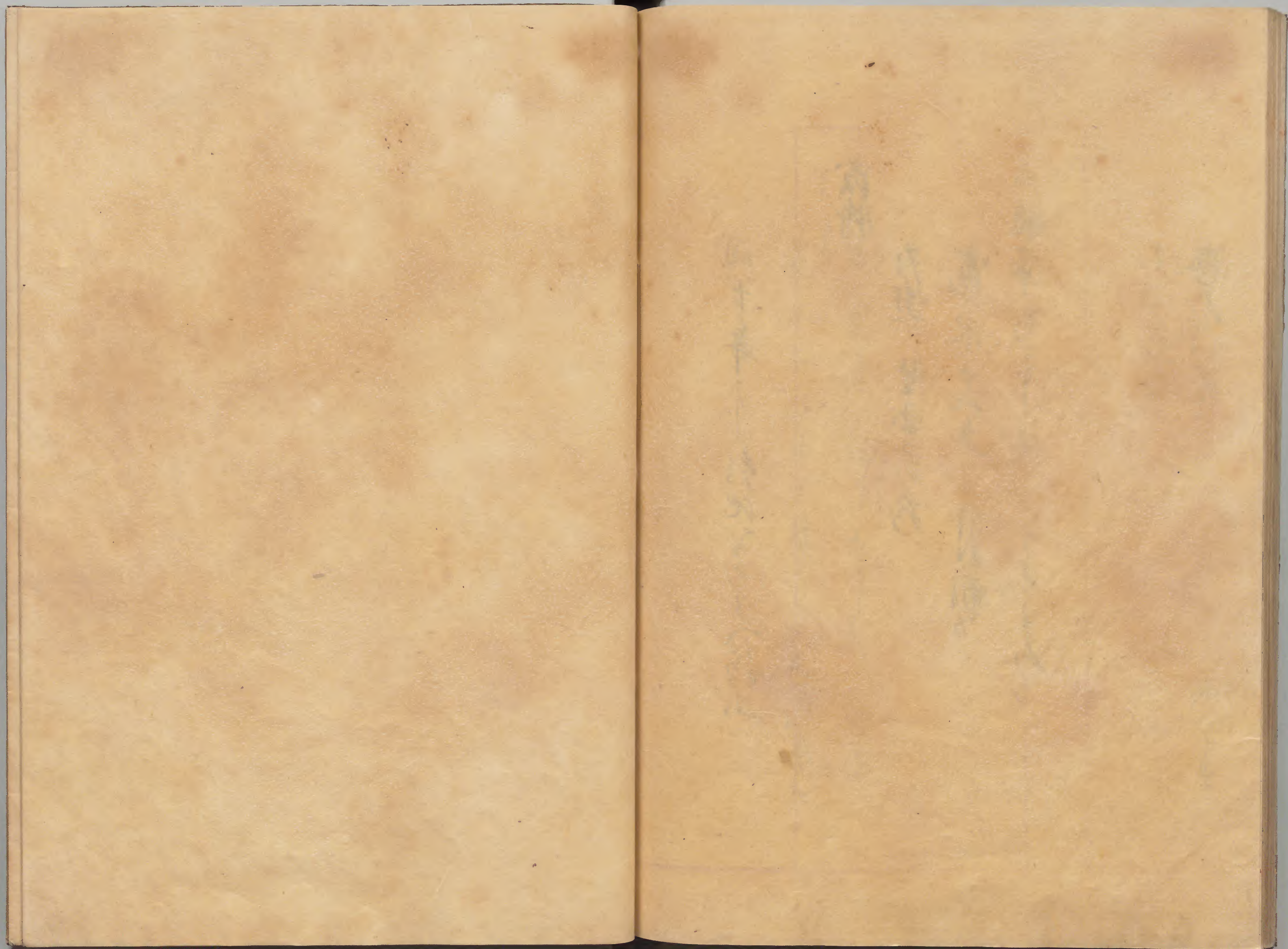
成將

才左衛門 生田武務

寛永十八年三月朔

將軍家より湯へきくまら

才乃紋藤丸



矢橋 ヤハシ

● 安忠 ヤシロ

材思和泉守 シラノ

天正八年以病死八十一歳

法名宗孝 ムネタカ

忠重 チカシゲ

新嘉利俊 チカシゲ
——
新入と号 チカシゲ

江列矢橋累代の位西へる以忠重
しり村墨氏と改く矢橋と稱と
長八年しり

大権現しりしきくまの忠良と稱
元和六年病死八十八歳

宣頼

長十三年

長十三年

名陸院殿しりしきくまの忠良と稱

重好

頼母助

寛永十一年しり

將軍あしりしきくまの忠良と稱

忠の紋由星

